

論文審査の要旨

報告番号	修第 1282 号	氏名	秋元瑞穂
論文審査担当者	主査 浅野和仁 副査 志水宏行 副査 榭 恵子		
(論文審査の要旨)			
<p>急性期病院では、早期退院、早期離床を目的に栄養状態のすぐれない入院患者に対して早期リハビリテーションが推奨されている。また、近年「リハビリテーション栄養」という概念が普及し、栄養障害の程度が患者の日常生活動作(ADL)の改善や転帰に影響を与えることが報告され、患者の栄養状態とリハビリテーションの関連性が注目されている。しかし、これらの報告は回復期リハビリテーション施設における研究で、急性期病院における栄養とリハビリテーションの関連性については十分に検討されていない。そこで学位申請者、秋元瑞穂さんは急性期病院の入院患者さんを対象に栄養状態と効果的なリハビリテーション、さらには ADL の関連性について検討した。</p> <p>A 大学病院脳神経内科並びに脳神経外科に入院し、作業療法士がリハビリテーションに介入した 51 例を対象とした。これら症例を血清アルブミン値で栄養不良群、栄養改善群、栄養良好群に分類し、リハビリテーション介入前後の機能的自立度評価法(Functional Independence Measure; FIM)によりその効果を検討した。</p> <p>運動項目並びに認知項目の FIM は栄養不良群では介入前後で見べき変化が観察されなかったものの、栄養改善群と栄養良好群では有意な改善が認められた。栄養補給方法の変化を介入前後で比較すると、介入によって経管栄養から経口栄養に移行できた症例数が有意に増加していることが観察された。これらの結果は、急性期であっても早期に作業療法士がリハビリテーション介入することにより、患者の栄養状態や ADL の向上を図ることが可能であることを明示しており、学術的価値が認められることから本研究は修士(保健医療学)の学位に相当するものと判断した。</p>			